

G 空間 EXPO2017 シンポジウム  
「地球観測の科学利用と実利用の新たな展開」

日本写真測量学会 対外協力委員会  
日本リモートセンシング学会 実利用委員会

シンポジウム概要

日時： 2017 年 10 月 13 日(金) 13:45～16:45(13:35 受付開始)  
場所： 日本科学未来館 7 階会議室(コンファレンスルーム天王星)  
主催： 日本写真測量学会、日本リモートセンシング学会  
共催： 地理情報システム学会

シンポジウム名称及び趣旨

「地球観測の科学利用と実利用の新たな展開」

【趣旨】

測位分野では準天頂衛星の 4 機体制が実現されようとしており、リモートセンシング分野においてはドローンや小型衛星コンステレーションなど新たな観測手段が登場し、高度な観測性能を持つ気候変動観測衛星「しきさい」(GCOM-C)の打上げが迫っている。これら先端技術を活用して社会課題の解決につなげることが期待されるが、現代社会における課題は非常に複雑なプロセスの下で生じている。このため、科学的理解の増進と実利用の推進に同時に取り組むことが重要である。また、個々の科学・技術を適切かつ有機的に組み合わせることも必須であり、このような異分野間の協力、連携を発展させるための議論を行なう。

講演題目

13:45-13:50	趣旨説明	福田徹 ((一財)リモート・センシング技術センター)
13:50-14:10	日本の宇宙政策とリモートセンシング	内閣府 宇宙開発戦略推進事務局 審議官 佐伯浩治
14:10-14:30	技術実証衛星 CE-SAT-I の初期運用状況と 画像利用模索について	キヤノン電子(株) 衛星研究所 所長 酒匂信匡
14:30-14:50	衛星とドローンを用いた精密農業	国際航業(株) 技術サービス本部 事業推進部 生産プロセス監理室 室長 今井靖晃
14:50-15:10	地球環境変動観測衛星「しきさい」 (GCOM-C)の概要とその目指すもの	千葉大学 環境リモートセンシング研究センター 本多嘉明准教授
15:10-15:30	マイクロ波放射計による海氷継続観測の意義	東海大学 情報技術センター 所長 長幸平
15:30-15:50	実利用に向けた AI の活用	(株)パスコ パスコ総合研究所 空間情報技術研究室 室長 佐藤俊明
15:50-16:00	<休憩>	
16:00-16:40	パネルディスカッション	司会： 福田徹 パネリスト： 各講演者
16:40-	閉会の辞	

以上(敬省略)